

# 飼育レポート

B r e e d i n g r e p o r t

report.1

## レッサーパンダ「ケンシンおたすけ隊」に感謝

飼育展示担当(動物専門員) 櫻庭 美千代

レッサーパンダのケンシン(オス)は、2022年11月頃から虫歯や歯肉炎の影響で主食の竹の葉を食べることが難しくなりました。そのため毎日竹の葉を1枚ずつちぎってハサミで小さくカットし、ミキサーで細かいペースト状にしたものすりおろしリンゴをまぜて与えています。

この竹ペースト作りは非常に手間と時間がかかります。与えたいペーストは最低でも1日1束分程の葉です。日々作業の合間を縫って作っていますが、飼育員は他の仕事もあるため時間の確保が大変です。

そこで、2023年9月から来園者に竹の葉をちぎってもらうイベント「ケンシンおたすけ隊」を始めました。これは、動

物園には元気で健康な動物ばかりが暮らしているわけではなく、高齢になりエサを食べるのが大変で、実は裏では動物も飼育員も一生懸命頑張っていることを伝えることが目的です。また、動物のエサ作りの一部を来園者に手伝ってもらうという新しい形の命のイベントとして実施しました。

みんなで30分程竹の葉を夢中でちぎり、その後ケンシンが美味しそうにペーストを食べる様子を参加者が食い入るように見つめる姿は、飼育員にとって様々な思いや感じるものがあります。このイベントを通して「命とは何か」が伝われば幸いです。イベントは定期的開催しているので、ケンシンのために機会があればぜひ参加してみてください。



紙芝居でケンシンの現状を解説



ケンシンのために竹の葉ちぎり!



ケンシン

report.2

## マーコールの母娘が偶然同じ日に出産

飼育展示担当 藪崎 雅紀

2024年5月31日、母のクルミが1頭、娘のゆべしが2頭の子を出産しました。マーコールの繁殖期は秋頃で、出産は5～6月に集中するものですが、同じ日になるのは珍しいと思います。仔は出生後すぐに抗体を多く含む初乳を飲み、免疫を高める必要があります。幸い2頭とも過去に出産を経験し、授乳がとても上手でした。

しかし、授乳を確認した矢先、クルミの仔がゆべしに乳をねだり、心配したクルミが駆け寄りましたが、ゆべしに追い返されました。クルミはゆべしの母ですが、2頭は不仲のため協力して子育てする関係ではありません。ゆべしが交互に授乳する姿は確認できたものの、ゆべしに一任すると乳量不足

で仔が痩せる恐れがあるほか、クルミの乳が張り乳房炎になるリスクもあります。そこで、クルミの仔をゆべしから隔離しようと試みましたが、ゆべしが母であると勘違いしたのか、引き離すことができませんでした。

翌日以降、仔の状態を注意深く観察しました。我々の心配とは裏腹に、生後3日で岩山を軽々と駆け上がるほど身体能力が向上し、さらに喜ばしいことに、6月4日には再びクルミが自分の仔に授乳する姿を確認できました。現在、仔の体格はどんどん立派になり、乾草や飼料作物を好んで食べています。今後の3頭の成長が楽しみです。



マーコールの子どもとゆべし



授乳するゆべし



岩場を軽々登るなど日々成長中!

## 「大森山自然塾」で身近な生き物を知ろう

飼育展示担当(動物専門員) 宮原 星

私たちの身の周りには、普段は気が付かないだけで多くの生き物たちが暮らしています。私は小さい頃から生き物が大好きで、すぐそこに魅力的な生き物がたくさんいるのに、知らないなんてもったいないとよく思っていました。「大森山自然塾」はそんな思いから、小さな自然の面白さ、生き物を見つける楽しさを体験してもらおうと2023年4月に始めたイベントです。毎月1回、ウグイスやセミ、ドングリなど、その季節に応じたテーマを決めて、園内で観察したり、生態や形態などの解説をしたりしてきました。テーマにするのは誰しも一度は目にしたことのある生き物ですが、どれだけ近くにいるか、知らないこと、気づいていないことがたくさんあり

ます。私自身も自然塾を通して多くのことを学ぶことができました。

また、身近な生き物を知るとは、彼らのピンチに気づくことにも繋がります。その場所にどんな生き物が暮らしているか知らないことには、いなくなってしまうと気づくことができません。様々な環境問題が起きている中、地球を守ろうという規模が大きすぎて自分事としては感じられないかもしれませんが、まずはその第一歩として、自然塾での体験が楽しい学びとして、身の回りの自然に目を向けるきっかけになると嬉しいです。



8月は「夏休みスペシャル」と題して園内ピクニック広場で虫取りに挑戦しました



捕まえた虫をじっくり観察

## 動物病院から from the animal hospital

### 動物園に異動して半年で感じたこと

飼育展示担当(獣医師) 主席主査 佐野 功一



私は4月の異動で市役所の他部署から大森山動物園に配属となり、半年が経ちましたが、飼育や診療業務に追われている毎日です。大森山動物園には90種類以上、500点以上の動物たちがいます。配属される前は漠然と動物たちの数を聞いていましたが、いざ配属されてみるとその数の多さに圧倒されています。

私の獣医師としての役割には、動物たちの体に寄生している寄生虫を取り除く「駆虫」があります。動物たちの健康や快適な生活のため、定期的に駆虫を行っています。例えば、寄生虫がおなかに入れば食欲不振や下痢などの消化器症状を起したり、皮膚に寄生していればかゆみや痛みを

引き起こすことがあります。動物に感染する寄生虫の中には人にも感染するものもあります。動物園は多くのかたが訪れる場所ですので、動物から人に感染する可能性も考えられます。私はふれあいコーナーでの飼育担当もしており、毎日「なかよしタイム」を実施して多くの方々がモルモットやウサギをなでている姿を見て、駆虫の大切さを日々感じています。

動物たちのためにも、動物園を訪れてくださる方々の安全のためにも駆虫は欠くことの出来ないものですので、安心して動物園を楽しんでいただくため、今後もしっかり実施していきたいです。



注射の準備



入院中のモルモットに水をあげている様子



なかよしタイムでモルモットとふれあい